

学校法人第一学園
第一幼稚園 第二幼稚園 杉並台幼稚園
平成 25 年度自己評価 報告書

平成 26 年 5 月 31 日

第一学園 理事長 伊藤 博士

学校教育法第 42 条にもとづき、学校法人第一学園第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園における平成 25 年度自己評価を次の分類により実施した。

(1) 教師用評価項目 (全 60 項目) の分類

- ①教育計画・指導
- ②安全・衛生管理
- ③教師の資質・良識
- ④保護者・地域との連携、対応
- ⑤資質向上の取組

(2) 園長用評価項目 (全 78 項目) の分類

- ①教育内容
- ②地域の幼児教育センターとしての役割
- ③安全管理
- ④人事管理
- ⑤財務管理

平成 25 年度の自己評価のまとめとして、学校法人第一学園第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園の実情と評価の分析結果、今後の課題を別紙「自己評価公表シート」に記載する。

学校法人 第一学園（平成 25 年度） 自己評価公表シート

第一学園 理事長 伊藤 博士

はじめに

学校法人 第一学園 第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園における自己評価シートをもとに、現状における本学園の実情を分析した結果、概ね以下の通りとなった。

【I】 本園の建学の精神・教育理念・教育目標

1 建学の精神

一人ひとりの幼児の姿を正しく見つめ、ただ一人の幼児の心をも悲しませない血の通った教育をする。

2 教育理念

幼児期にふさわしい温かい環境の中で、科学的に裏付けられた教育を実践することによって、教育目標の実現を図る。

3 教育目標

自己肯定感を持って自立し、他者との調和の中に、力強く自己実現できる人間の育成。

【II】 平成 25 年度の重要な目標

1 「しせい教育」の理念の下、子ども達を中心に、保護者・幼稚園職員など幼稚園関係者全員が幼児教育のパートナーとして協力し合い、地域と密接に連携し、何より日々の教育実践の充実を図る。

2 レベルの高い教育機関として、高度の客観的評価に耐えうる教育力と保護者との協力関係充実のための説明力等の更なる向上のため、①より一層の職員研修体制の充実などによる人材育成を図り、②学園の将来を担う優秀な人材を積極的に採用することとする。

【III】 平成 25 年度自己評価に関する取り組み方針

幼児教育の重要な環境である各人が、自己の教育活動を「自己充実」、「説明責任の視点」から見直し、より一層、教育の質を高めるとともに、今回の評価によって更なる自己分析を行い今後取り組むべき課題を明らかにする。

評価結果より現状を分析し、分野毎に表にまとめると以下となる。

評価分野	自己分析
教育計画	幼稚園教育要領を十分に踏まえ、当学園の「教育理念」「教育目標」の実現に向けた様々なプロジェクト、研究会などで深められた教育課程に基づき作成された長期、短期の「成長計画」にもとづきその充実を図っている。
教育の実施と指導	十分に検討された教育計画、成長計画に基づき、共に育つ存在、重要な環境として、自己充実を図っている教師よる、生き生きとした、かつきめ細やかな教育体制が充実している。これからも、科学性の理念に基

	<p>づく、日々「研究」「実践」「検証」の過程を大切により一層の充実を図ることとする。</p> <p>「特別支援教育」については、幼児一人一人のニーズに合った支援を行っており、その成果は大きなものがある。</p> <p>負担も大きいですが、幼稚園の公益性の見地から努力していくべき重要な課題と考えて、学園全体で支えている。</p>
地域・家庭との連携と支援	<p>十分な幼児教育実践の為には、家庭との「教育理念」、「情報」の共有は不可欠であり、保護者との連携は当学園でも重要な教育実践の柱の一つである。今後も、相互の情報提供をより密にし、保護者会組織の支援も頂きながら園児の成長の基盤強化を図ることとする。</p> <p>幼稚園の公益性の見地から、地域とのつながり、在園児以外への子育て支援にも一層努力する。</p>
安全・衛生管理	<p>日常における安全・衛生管理には十分に注意を払っている。</p> <p>「AEDの設置」「空気清浄機の設置」等のハード面はもちろん、ソフト面でもハザードマップの有効活用、各種訓練を実施し意識、技能の向上を図ってきている。</p> <p>外部からの不審者の侵入自体への適確な対抗手段は難しい問題であるが、職員の見回り等で対応している。</p> <p>安全衛生に関しては、最も優先すべき課題として、今後とも出来る限りの充実を図ることとする。</p>
人材確保・育成及び労務管理	<p>採用については、公平・公正を期しているところである。</p> <p>本年度も、当学園の「教育理念」に賛同した優秀な人材が、応募してくれており、人材確保に不足はない。</p> <p>意欲ある職員による、積極的な「外部研修」への参加、「園内研修」「各種プロジェクト」活動等により多くの成果を生み出してきている。</p> <p>労務管理においては、理事会の方針を踏まえ、就業規則をはじめ、種々の規定を整備して法改正にも対応しており、特段の問題は生じていない。</p> <p>充実した教育の実践の為の職場環境の一層の活性化を全員で考え実行している。</p>
財務管理と法人管理	<p>財務管理は法人運営上最も重要な位置を占めている。毎年度必要書類を作成して公認会計士の監査を経るとともに、年2回の法人役員会の中で協議決定されている。将来に備えた留保金や日常運営資金には充分配慮しており特に問題はない。運営に関しては、毎月の「運営会議」「事務会議」により適切な運営が図られている。</p>

[IV] 今後の課題と取り組み

自己評価の結果は、当学園の基本理念の適切な実践を確保し、更に伸ばしていくための、様々な視点からの検証結果として、平成 26 年度における本園の運営に活用していくこととする、